

第4号

平成30年3月1日  
隔週発行

# ともしび通信

発行：NPO 没イ手の会・京都



二月十六日の歌声喫茶の様子



4月の歌声喫茶開催予定は、  
4月5日（木）と4月20日（金）です。



平成30年4月5日（木）お花見会を致します。  
雨天の場合は洛西会館にて行います。  
松木先生、阿部先生も一緒にいただきます。  
ご飯を食べて、飲んで、歌いましょう。  
詳しくは幹事まで、  
千賀さん 090-9617-3036 小池さん 080-3036-3946  
会費 1,000円





## 自分に厳しく、他人にやさしく、

私が、良く今までにいろいろな人に言われてきた言葉です。仕事でも私は自分に甘く、他人には厳しい人間です。今でもそのようです。反省しています。

セールズで売れないのは、お客が悪い、値段が高い、商品が悪い、メーカーが有名でない、今日は雨が降っているから、熱いから、寒いから、上司が気に入らない、籠谷 弘が気に入らない？。

あげたらきりが無い無いくらい理由をつけられますね。飛び込みに行く時このハードルをどう乗り越えるかがまず第一段階の壁です。

確かロンドンオリンピックの最終予選で東京で走った、Qちゃんのマラソンを見ていて感動した方が、多かったですね。私が、私なら優勝を狙って最後の挑戦でしたので十キロ時点で遅れたらもうやめていたと思いますがQちゃんは最後まで走りまわったのでしょね。

謝の気持ちで走り切ったのでしょね。

人生そのように走れるでしょうか？自殺者が日本で年間四万人だそうです。四人に一人は自殺を考えたことがあるのと、そういうえば私もそんな時がありました。

自殺を考えると、自分に甘く、周りに厳しいのですね。かなりハードな問題ですが、自殺を考えた時を思い出してみると死神がついてしまっているのです。そうすると自殺が怖くなくなります。

理屈抜きで死んでしまおうと考えるのですね、怖いことです。

何が怖いことなのか？死にたければ自殺してもいいでわなにか？と云うご意見も聞こえてきますが、そうですね自殺はいけない事なのでしょね？

私には結論が出ていません、どなたか教えて下さい。

いずれにせよ、四万人は多いと思いますか？

京都の高齢者での自殺者は年間四百人だそうです、一度立ち止まって考えるのもいいかもしれませぬ。突然死にたくなるそうですから怖いですね。

歌を唄ってそんな気持ちを吹き飛ばしましょう。

籠谷 弘

## 般若心経の心と自分

先日会社のスタフとテレビを見ていて、死刑制度賛成、反対と議論しましたが、私は反対と議論を引け散らかしてしまい、後で後悔してしまいました、いえ決して自分の考えが間違っていると言いう意味ではなく、自分の心の中にしまっておくことであつたなと思っただけです。

人の死を身近で見ているのは、中学時代におじいさんの死、高校時代に同級生の自殺、京都のお婆さんの死、30代になってお袋の死、大阪のお婆さんの死、おじさんの死、女房の父親の死、そして女房の死。

人が死ぬとはどういうことか、未だにわかりません、自分が死んでみたらわかるってですか、人間ほど不可実性な動物はいないかも、いえ生き物すべてそういえませぬ、あなたはいつ死ぬのですか？などと意地悪な質問をして意味の無いことではしょか。

この年のなると朝目覚めると今日も生きていた、又苦しい一日が始まると毎朝思うのです。うつ病にかかっていますか、今年の年末を向かえ今考えていることは、自分は何をしているのか、何をしようとしているのか、それが分からなくなっているのに分かっていて振り回されるように振舞って、人と笑ったり、怒ったり、悲しんだり、そこに何の意味があるのでしょうか、などふてくさって見たり、そうしているうちに何か分かってくる何か見えてくると感じているのかも、実像の私と、虚像の私の使い分けが難しくなっています。

ビジネスをしていて(話は飛びますが)お金儲けをしようとする気があります、儲けてどうするか、目的が持てません、困った代表ですね、こうしたら儲かりますよと、儲かる道を示すことは出来ます。ですがそれを実践行動に移すのに躊躇してしまふのです。

誰かが私の言う通りに実践してくれば儲かるのに。

ビジネスでの成功の概念が違うのかも知れませぬね、トラは死んだら皮残す、人は死んだら名を残す。これにこだわっているのかも、以前ある方に般若心経の「色即是空、空即是色、色不異空、空不異色」を未だに50数年かかって分かりますか？といったことがあります、いまだにわかりませぬ。

数年前女房と二人で上野公園を散歩していたとき、弘法大師様の展示会が行われていましたので、入ってみようかと、入場料を払い入ってみました。薄暗いところで、弘法大師の遺品等が展示してありそれを眺めるでもなし、眺めていたら突然私の頭の中に言葉がどんどん湧き出してきて、急いで薄暗い中で、ペンがあつたのですが、書き留める紙が無かつたので、パンフレットの白く開いている部分に書き留めました、(次回ご披露いたします)

その後、それが判ったと思っていたら分からなくなり、又分かったと思えるときがあり、その繰り返しをしています、般若心経の言葉はこういう事ではないかと、書き留めたものです。後日ご披露いたします。

籠谷 弘

## ともしび通信

発行元：NPO 没イチの会・京都  
住所：京都市西京区大原野東境谷町1丁目1番地4-701  
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328  
MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。